

大洋州からの大学生と交流しました。

1月25日、和歌山大学に、大洋州6か国からの大学生40名が来学され、本学学生と交流しました。フィジー、キリバス、ミクロネシア、サモア、トンガ、バヌアツの学生たちは、雪のまだ残る和歌山キャンパス内を見学し、国立大学で観光学部があるのは2大学だけであるという説明や、図書館では学生の推薦図書コーナーに関心を示していました。

続いて、和歌山大生から大学概要の紹介がありましたが、大洋州の学生たちから爆笑が起きることもあり、たいへん楽しいプレゼンで、場がいきになごみました。

DVD「3. 11メッセージ」を視聴すると、海で囲まれた各国からの参加者からのすすり泣きが暗い会場に聞こえてきました。大切な家族を守るために、自分自身を守るために、何をしたらよいか、防災に対する準備の気持ちを持ち帰っていただければと願っています。

2限の交流会では、和歌山大で学んでいる留学生も参加し、たいへん国際的な雰囲気の中、6か国の紹介のプレゼンやパフォーマンスが披露され、フィジーのダンスを会場にいたほとんどの参加者が大きな輪になり、楽しく踊る場面もありました。フィジーの参加者の中に聴覚障害の学生がいらして、手話通訳の方がずっと前に立って通訳をしていましたが、フィジーのメンバーは自分たちも手話を学ぶことにしたそうで、全員で歌う手話付きの国歌は感動的でした。サモアの紹介では、独自の文化が紹介され、入れ墨を尊重する伝統を知り、それぞれの文化の奥深さを知らされました。トンガの学生が食文化についてプレゼンした中で、「日本の料理はヘルシーなので、日本の滞在中に痩せそうです」と話すと、会場がどっと笑いで沸きました。

短い交流ではありましたが、学生たちは別れを惜しむように記念写真をとり、大洋州の学生たちを見送りました。



和歌山大生からの大学と和歌山紹介



フィジー国歌を手話付きで歌う学生たち



フィジー・ダンスで大盛り上がり



サモア、トンガ、キリバス、バヌアツ、
ミクロネシアの学生たち

これまで大洋州の国々から訪問していただく機会は少なく、それぞれの国についての知識はたいへん限られたものでしたが、おおらかで明るい学生たちと直接お会いして、その人柄に親しみを覚え、国に対する関心も高まる機会となりました。

2016年1月26日
国際教育研究センター

